

第 171 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事概要

日 時：令和 4 年 7 月 28 日（木）13:45～14:45

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

・会議の概要

<報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。
- ◇ 医療フェーズの移行について、総括情報部より報告があった。

1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、島袋 政策調整監、溜 基地対策統括監、
宮城 総務部長、儀間 企画部長、金城 環境部長、宮平 子ども生活福祉部長、
系数 保健医療部長、崎原 農林水産部長、松永 商工労働部長、
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、
半嶺 教育庁、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、
県警 平良 警備第二課次席 宮里 感染対策統括監、
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

欠席：池田 副知事

2 報告事項

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
 - ✓ 人口 10 万人当たりの新規陽性者数は、二週間前に 1,190、一週間前に 1,636、昨日が 2,210 と 2,000 人台で推移している。
 - ✓ 病床使用率についても、二週間前までは 61.3%だったところ、87.8%まで上昇している。重症者用の病床使用率についても同様に上昇しており、現在 43.5%となっている。
 - ✓ 前週比についても、ここ数日 1.2～1.4 で推移している。
 - ✓ 本日の新規感染者数は、5,442 名が確認されている。ここ二週間で最大の新規

陽性者数は、7/26の5,622名となっている。

- ✓ 入院中の患者数について、二週間前の394名から徐々に増加しており、昨日は614名となっている。うち県基準での重症者数も二日前から2桁台に上昇している。
- ✓ 宿泊施設での療養者数は現在500人台から600人台で推移、自宅療養者数は30,666名となっており、療養者数は38,791名と大幅に増えている。
- ✓ 都道府県別に見ると、これまで九州・沖縄地方で感染者が多かったが、現在は2位大阪、3位福岡、4位東京と都市部での増加が見られる。
- ✓ 県外在住新規陽性者数は、5/18の週では28名で、その後も2桁台で推移していたが、7/13の週で188名、7/20の週で271名と急激に増加している。
- ✓ 各市町村別にみると、市では、石垣市が前週比0.80となっている以外は増加傾向にあり、那覇市は1.47、浦添市は1.52と増加傾向。
- ✓ 圏域別の状況は、県全体の病床使用率は87.8%となっているが、本島では98.1%となっているが、宮古八重山では60%を下回っている。重症者用病床使用率は、用意されている重症者ような病床が少ないこともあり、宮古は100.0%となっているが、その他の地域では20%~40%となっている。新規陽性者数の前週比は、八重山では1を切っているが、その他は1を超える状況が続いている。
- ✓ 宮古圏域の状況は、6月末に下がっていた新規陽性者数が増加しており、人口10万人当たり2,495人となっている。前週比も1を超える状況が続いているが、病床使用率が20%台に抑えられている。
- ✓ 八重山圏域の状況は、しばらく抑えられていた新規陽性者数が6月末から増加し、人口10万人当たりの陽性者数が3,000人を超えるような状況だったが、7/24から2,000人台に下がっている。前週比も1を下回る数値となっており、病床使用率も一時期からは改善が見られる。

- ✓ 年代別新規陽性者数は、人数としては 40 代が最も多いが全体的に上向きである。年代ごとの前週比は、90 歳代 1.81、80 歳代 1.62 と、高齢者の急激な伸びが見られる。
- ✓ 非コロナ病床利用率について、7/27 時点では沖縄県全体で 95.3%となっており、圏域別に見ると宮古圏域が 90%を下回っているが、本島八重山圏域は 95%を超えており、依然高い状況が続いている。
- ✓ 患者受入医療機関の就業制限（休業）状況は、7/27 で 1,221 名となっている。内訳としては、看護師 588 名、コメディカル 495 名と休業者は多い状況が続いている。
- ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会によると、沖縄本島での実効再生産数は 1.22 となっており、八重山を除いて、感染拡大が続いている。
- ✓ 県外からの渡航者の陽性者数は 240 名で、県内で診断される陽性者全体の 1%以下だが、全国での感染拡大を受けて渡航者の感染例が急速に増えてきている。最多の渡航元は東京都の 63 名。
- ✓ 年齢階級別では、40 代が最多で、次いで 10 代、10 代未満と続いている。また、90 歳以上の前週比は 1.74 となっており、高齢者施設で多発している集団感染が背景にあるものと考えられる。
- ✓ 今後の見通しと対策として、医療フェーズを現在の「5」から「緊急フェーズ I」と引き上げ、緊急性の低い入院、手術、検査などを制限することで、緊急に入院が必要な患者のための病床を確保する診療継続計画（BCP）を各病院に発動させる。
- ✓ 重症化リスクの低い若年の軽症者については、できるだけ救急受診を避け、日中に近隣の診療所を受診するようにし、検査を希望する場合は、無症状であれば県の設置する接触者 PCR 検査センター、または市中の民間検査機関の受検を。症状を認める場合は、発症日の翌日以降、市販の医療用抗原検査キットで自己

検査することもできる。

- ✓ 今週の新規陽性者数は 28,000-40,000 人となる見込みだが、検査・受診体制が限界となっているため、抗原検査キットの配布状況などにより変動が見込まれる。入院患者数については 900-1,000 人が見込まれる。
- ✓ 一般無料検査の状況は、7/16 の週で受検者数 42,897 件、陽性者数 7,798 件で、陽性率は 18.18%となっている。学校 PCR は小中高では 0 件だが学童クラブや保育所では使用されており、陽性率 4.16%となっている。
- ✓ ワクチンの接種状況は、1 回目、2 回目は 70%台。3 回目は 46.7%で、4 回目接種は 60 歳以上の 17.5%が接種済み。
- ✓ 県広域接種センターの取り組みとして、7/23、8/13 にイオン名護ショッピングセンター臨時会場を設置し、7/23 は 88 名の接種を行った。7/28、7/29 に沖縄県庁 1 階県民ホール臨時会場を設置し、7/28 は 140 人、7/29 は 130 人程度の申込がある。当初 1 日当たり 150 名を想定していたが、レーンを増やし 225 名まで接種可能な対応を取っている。8/3、8/4 に名桜大学、8/5 に沖縄国際大学内臨時会場を設置する。接種規模はそれぞれ 1 日当たり 150 名程度。
- ✓ 追加接種（3・4 回目接種）年代別対象者数及び接種実績について、県では 59 歳以下の 3 回目ワクチン接種率について 60%以上の接種を目標としており、現在 59 歳以下の 3 回目接種率は 52.36%となっている。引き続き目標達成のため接種を呼びかけていく。また、60 歳以上の 4 回目接種を 8 月までに 80%以上、中間目標として 7 月までに 60%達成することを目標としているが、現在 35.63%に留まっている。一週間で 10%ほど接種率が上がっている状況のため、目標達成のため引き続き対応していくところ。

（2）県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 7/27 の県立病院の入院患者数は全体で 185 名、前週より 35 名、前々週より 105

名増加している。沖縄県の入院患者数 882 名のうち、21.0%に当たる。県立病院が確保しているコロナ病床の稼働率は 66.3%である。

- ✓ 入院患者数の内訳は、北部病院 46 名、中部病院 40 名、南部医療センター21 名、宮古病院 18 名、八重山病院 26 名、精和病院 34 名となっている。精和病院の急激な増加については、閉鎖病棟での感染拡大によるもの。
- ✓ 北部病院で 7/12 に発生したクラスターは 7/27 時点で累計感染者数が 18 名となっている。7/20 に発生した別の病棟での新たなクラスターは、当初 12 名だったが 7/27 までに 29 名に拡大しており、入院患者 1 名が死亡している。病院全体が疲弊しており、入院を絞っているが介護度が高い。
- ✓ 中部病院では、救急搬送数は変わらないものの、一般診療制限により軽症発熱患者は減少している。患者からのクレームが相当数減っており、職員の負担軽減となっている。地域救急医療を守るためにも、軽症発熱疾患は地域の診療所で診てほしい。
- ✓ 南部医療センターでは、7/27 時点で職員の休職者が 82 名となっている。緊急フェーズ I に向け病棟を調整している。8/1 に BCP を発動しコロナと救急の二つに絞った医療体制にするため、その他の医療は制限する。予定入院や待機手術はキャンセルするが、患者からは理解の声が大きく助かっている。
- ✓ 宮古病院では、7/21 に 2 件のクラスターが発生し、現在 2 件合計で 17 人となっている。職員の休業者は 32 人。クラスターで閉鎖していた 2 病棟は解除したが看護師確保のため 1 病棟を閉鎖した。島内高齢者施設などで感染増加のため本日 ICT 看護師が現地調査、指導に行く予定。
- ✓ 八重山病院で 7/11 に発生したクラスターは、新たな感染者が発生しておらず累計感染者 9 人全員が回復したため、クラスターは終息したと判断している。7/27 時点の休業職員は 35 人で先週に比べ減少しており、病院事業局から看護師の応援派遣もあってマンパワーが改善している。

- ✓ 精和病院では閉鎖病棟で大きな感染があった。精神科病棟であるため、マスクができず、感染対策が難しい。

(3) 宮古・八重山地域の感染状況について

- 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。
 - ✓ 宮古圏域では一週間の陽性者が1,367名で1日当たり最大200人弱、前週比は1.3超。5週連続で1.1を超える状況が続いている。6波が6週連続増加後減少に転じたので、来週以降下がりに期待したい。
 - ✓ 島民の3.4%が現在療養中で、濃厚接触者が2倍以上いると考えても、約10%の島民が行動制限されているものと考えられ、10人に1人が仕事を休むことによる経済的損失を計算してみたいと考えている。
 - ✓ 40代が最多で、次いで30代が多くなっている。春に多かった10代、10歳未満は割合として減少している。60歳以上は15.4%と増加している。
 - ✓ 職業別では医療従事者が一番多くなっており、保健所でも陽性者が発生している。
 - ✓ 陽性者の発生した施設は29件となっており、前週が31件だったため、急増は止まったかと思われる。施設内療養者は46名。
 - ✓ 協力機関での入院患者は21名、その他の医療機関で10名入院となっている。
 - ✓ 陽性者が発生した施設はこれまで263施設。うち、クラスターが発生したのは9.5%。前回7.8%だったため、やや増加傾向。施設によって感染者の数が二極化しており、平均は2.4人だが多いところでは10人以上発生している。個室がないところや、施設の運用上距離を取ることが難しいケース、患者がマスク着用できないなどで広がっている。3回目までのワクチン接種率は高いが、効果が切れてきており、4回目接種が進まない限り減少することが難しいのではないかと考えられる。

- ✓ 多良間村での感染が増加しており、6/22以降で27名、ここ一週間で22名が陽性。3月に多良間で70名ほど患者が出たが、半数は子どもだった。今回は40代が多く、職業は公務員が多い。社会機能が若干マヒしている可能性がある。診療所のドクターにも陽性者がおり、宮古病院から応援派遣されている。
 - ✓ 多良間の療養者で入院者は0、自宅療養22名、宿泊施設1名、待機中2名となっている。第三セクター施設、多良間村内の企業の寮を宿泊施設として村が確保している。
 - ✓ 保健所の体制は、10名ほど動員として来てもらっているが、保健所内でも陽性者が発生しており、思うほど1日当たりの対応数が伸びていない。SNSを活用し、事前に自宅療養の案内の確認や、療養解除の案内を送付している。
 - ✓ 宮古島市観光協会や市の観光担当と、観光客が陽性になった際の対応について、情報共有や対策について意見交換を行う予定。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況等について報告。
- ✓ ここ一週間の発生患者数は、1,569名で、前週比0.81と減少に向かっている様子。
 - ✓ 年代別は、ここ二週間くらい20代30代で広がっている。60歳以上でも20%を超えており、島内施設でのクラスターの影響によるものと思われる。
 - ✓ 竹富町、与那国町での発生状況は、それぞれ119名、51名 竹富町は5人の有人離島すべてで発生している。大きな行事があった後といったことが聞き取れている。7/25時点の35名中25名が観光客。部屋の残数には余裕があるので、退所したら部屋ごとの清掃し回している。
 - ✓ クラスターについては、定員100名の施設で7/18~7/27で80名の陽性者を確認している。病院と連携し感染対策しているが、医療関係者の陽性者も多いため、保健所も協力して対応しているところ。

- ✓ 保健所の対応状況について、7/19 からのファーストコンタクトについて重点化を行い積み残しが大幅減ったが、療養解除や健康観察に回答がない方が非常に多く、そこに人員を充てる予定。SNS を活用し、発症日、療養解除日についての連絡に活用する予定。架電についても重症化リスクのある人中心に絞って対応していく予定。
- ✓ 連日 200 名ほど新規陽性者が発生しており、県対策本部及び出先機関に応援に来てもらい対応している状況。
- ✓ 緊急フェーズに移行したこともあり、昨日管内の医療機関や地区医師会と現状や今後の対応について情報共有を行った。

(4) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 8】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。
- ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、7/18 の週の受検者は 4,716 名で、前週比 +1,474 名。一日あたり 674 名程度だが、まだ検査の対応は可能。内訳は、県内在住者 4,293 名、県外在住者 423 名、陽性者は 369 名で、陽性率は 7.8%と前週の倍近くとなっている。
- ✓ 那覇空港、宮古空港での受検者が増加している。
- ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 679 名で、対前週比+219 名。1 日あたり 97 名だが、検査の対応はまだ可能。うち県内在住者 534 名、県外在住者 145 名、抗原検査陽性は 14 名であった。
- ✓ TACO について、体調不良者が 1 名発生したが、検査の結果陰性だった。7/18 の週の電話対応件数は 106 件で、うち健康相談・問診実施数は 66 件となっている。
- ✓ RICCA について、7/22 時点の登録者数は前週より +614 人、登録施設等は前週

より+23件。

(5) 濃厚接触者の待機期間の考え方について【資料9】

➤ 総括情報部より報告

- ✓ 7/22 から国の事務連絡にて適用された、濃厚接触者の待機期間についての説明。
これまでの待機期間7日間から5日間に変更。解除のための検査は不用。また、社会機能維持者を含むすべての濃厚接触者について、医療用抗原検査キットにて2日目、3日目に検査し両方陰性であれば、3日目に解除となる内容が記載されている。医療従事者並びに、高齢者施設、障害者施設等の従事者が濃厚接触となった場合、毎日検査で陰性を確認すれば1日目から従事することが可能となっている。
- ✓ 国とは現在調整中であり、来週以降通知を予定している。
- ✓ 保育園で濃厚接触者になった場合、現状は保育 PCR で検査結果がでるまでは自宅待機としているが、無症状であれば結果が出るまでの間も登園可能とする方向で調整している。RADECO のような形で小さい子どもの検査を行えるかどうかはリエゾンを通して国と調整中。

(6) 質疑応答など

- ✓ 保育 PCR の対応変更について、市町村へ確認したところ、クラス単位での PCR 検査は継続するものの、無症状であれば登園可能とする対応が望ましいとの声が多かった。特に保護者の方から登園要望が強く出ているとのこと。医療従事者の負担という観点から発生した議論だと思われるが、保育の現場でも子どもが登園できないため、出勤できないという保育士も多く、保育の提供体制の観点からも事務調整を要してもらいたいといった意見があった。
- ✓ ワクチン接種について、接種状況がほぼほぼ伸びていないが、県だけが躍起になっている様子、市町村でこれまでと違った取り組みなどはあるのか。

→市町村へ県の接種目標について共有しており、各市町村をサポートする担当職員を配置しており、接種率が伸びていない市町村についてどのような課題があるのか、医療従事者の確保などの支援が必要なのか、高齢者施設の接種率はどうか、市町村間のワクチンの融通が必要な場合など、調整をしているところ。

- ✓ 東京や大阪では沖縄ほど高齢者施設での集団感染が起きていない。分析としては、ワクチン接種が進んだ結果感染から守られているというもの。90代で急速に感染が広がっており、アウトリーチを徹底してでもワクチン接種を進めていただきたい。また、感染経路としては職員からのものが7～8割で、体調不良を認めるときに職員が休める体制が必要。沖縄ではとくにパートが多く、副業で夜勤の業務を行っている職員や、職場に黙って兼業しているケースもある。この点は沖縄独自の検討すべき課題と考えられる。その上で検査体制の強化をしていく。定期のスクリーニング検査に参加している施設が半分程度と聞いている。ずっと参加でなくてもいいので、今から一か月だけ全員参加でPCR検査、医療用抗原検査キットを活用し、症状の有無に関わらず陽性の職員を休ませ高齢者施設での感染拡大を防ぐことが必要。

→子ども生活福祉部と連携して施設に対して働きかけをし、今行っているPCR検査に加え、抗原検査キットを配布し検査で早めに引っかけるといった形を取りたい。ワクチン接種については市町村各担当の聞き取りを何度も確認し、対応していきたい。

→単発的なお願いだとその間手だてを講じることができないため、市町村とは定期的に意見交換を行うように。

- ✓ 継続的な感染を防ぐためにはワクチン接種することが一番だと考えているので、その点は力を入れていただきたい。アルコール提供のあるイベントについて、おそらくテレビに映ると思うが、世間に対してどうなのか。また、医療従事者がそれを見ると心が折れてしまう気がする。改めて主催者側に協力を依頼

できないか。

3 その他報告事項

(1) 医療フェーズの移行について

➤ 総括情報部より説明

- ✓ 7/24 から県内全域をフェーズ5から緊急フェーズIに引き上げることとした。入院患者が増えていくと調整を行いながらフェーズを上げていくもので、0～5までである。5の基準を超えていくと、緊急フェーズに移行する。県全体で医療のBCPを発動する時期であることを県民に伝えるためにも、フェーズ引き上げの必要があると判断し、病院長にも了解をいただき引き上げを行ったところ。

(2) 7/23-8/31 1000人以上のイベント調べ

➤ 文化観光スポーツ部より報告

- ✓ 商工労働部・文化観光スポーツ部でイベント開催内容の把握、主催者への働きかけについて取りまとめている。

(3) 質疑応答など

- ✓ イベントの中止や延期を求めているが、今回のコロナについては長期戦になることが予想される。昨年の夏の流行がアルファ株からデルタ株に置き換わりだったように、今年も同じようなことが起こることは予想されることから、中止、延期だけではなく、どのようにしてイベント開催できるのか知恵を絞っていく必要がある。子どものイベントについては容易に中止できる中で大人たちがアルコール提供のあるイベントに参加するような矛盾している状況は問題がある。空手世界大会のように、できる方法を出し合ってやっていく。リスクのあるイベントの開き方について整理していくことが求められる。

閉 会